

施策名 (直接目標)	成果指標	成果指標の達成状況等										施策の達成状況					定性的な成果	施策の達成状況								
		目標値 実績値	第1期 策定時値	第2期 策定時値	H30年度	R1年度	R2年度	第2期総括 目標値 (R3年度)	指標の補足説明 ※1	H30年 度 達成度	R1年 度 達成度	R2年 度 達成度	R3年 度 達成度	第2期総括 達成度	第1期中間 (H28年 度)	第1期総括 (H29年 度)			第2期中間 (R1年度)	仮判定 (総括)	第2期総括 (R3年度)					
4-7-4 市バスの輸送サービスの 充実 (安全で快適な市バス輸 送サービスを持続的に提 供する)	有責事故発生件数(走行距離10万kmあたりの有責事 故発生件数)	目標値	/	/	0.28	0.28	0.28	0.28	件	↘ 維持	a	a	c	c	c	B	B	B	C	B	●運輸安全マネジメントを着実に推進するとともに、LED路肩灯(H30年度)及びウインカーチャイム(R1年度)の全車導入や、運転手への脳健診(R1年度～)等を実施し、輸送安全性のさらなる向上を図ることができました。また、交通安全教室は新型コロナウイルス感染対策を実施しながら開催し、事故防止に向けた市民の意識啓発を図ることができました(H30:12回・R1:13回・R2:0回・R3:4回)。 ●運転手に対する研修については、新型コロナウイルス感染症対策として対面式から映像視聴型に変更して実施するとともに、事故の発生状況を踏まえ、実車を用いた体験型研修の対象者を拡大し実施したことで安全意識の向上や運転技術の向上が図られています。 ●新型コロナウイルス感染症の影響により乗車人員が大幅に減少した中、利用動向を踏まえた運行計画を見直すことで市バスネットワークを維持することができました。 ●運転手や整備士の計画的な採用を継続するとともに、全国的にバス運転手が不足している状況を踏まえ、大型自動車第二種免許を保有していない若年層の採用に向けて、運転手(養成枠)の採用選考を令和元年度から新たに実施するなど、人材の確保に努め、市バスサービスを安定的に提供することができました。					
	実績値	0.29	0.38	0.28	0.28	0.40	0.36																			
	お客様満足度	目標値	/	/	65.0	68.0	68.0	68.0	%	↗ 増減	a	b	c	b	b											
	実績値	55.4	59.2	69.6	62.0	50.4	56.8																			
	市バスの乗車人数(1日平均)	目標値	/	/	13.1	13.1	13.1	13.1	万人	↗ 増減	a	a	b	c	c											
	実績値	12.79	13.09	13.47	13.46	12.90	12.41																			
4-4-3 市民に開かれた安全で快 適な臨海部の環境整備 (川崎港の魅力を市民に 広めるとともに、港の活 力を高める)	川崎マリエン利用者数(港湾振興イベント及びスポ ーツ施設等の利用者を含む)	目標値	/	/	41.25	41.5	41.75	42	万人	↗ 増減	a	d	d	d	d	B	B	B	C	B	●R3年度には公益財団法人日本財団の「海と日本プロジェクト」に選定され、同財団からの補助金を活用した上で、川崎みなと祭りで新型コロナウイルス感染症対策などを踏まえて日時・場所を分散させて多くの個別イベントを開催したほか、川崎市内の観光スポット等の魅力を紹介したPR動画や川崎GIGAスクール構想における川崎港の副読本を作成するなど、デジタルコンテンツを活用した取組を行うことで、川崎港の魅力や役割に関する市民理解の向上を図りました。さらに、特定非営利活動法人日本ビーチ文化振興協会と相互連携・協力していくための協定を締結し、人工海浜「かわさきの浜」などを活用した川崎港の魅力の向上や発信を行いました。 ●川崎港港湾振興会館と隣接する東扇島中公園の一体的な指定管理とすることで、効率的な管理運営体制を構築するとともに、港湾緑地における民間活力の導入を見据え、東扇島西公園で釣りやBBQを融合させたモデル事業を実施するなど、港湾緑地の特徴を活かした利用促進を図りました。 ●市民が快適に利用できる川崎港の形成に向け、不法投棄が多くみられる複数箇所に監視カメラを設置し、ごみの捨てにくい環境づくりに取り組むとともに、監視指導員や立地企業と連携した取組により「台切りシャーン」の放置がほぼ皆無になったほか、無ナンバー車両の放置台数も約4分の1に減少させました。					
	実績値	40	34.5	42.3	16.8	12.4	14.6																			
	市内の海周辺施設を利用したことがあり、魅力を感じ る人の割合	目標値	/	/	-	15.0	-	17.0	%	↗ 増減	-	b	-	b	b											
	実績値	11.0	13.3	-	13.0	-	15.4																			
	目標値	/	/	41.25	41.5	41.75	42	万人	↗ 増減	a	d	d	d	d	B							B	B	C	B	●配下の事務事業については、いずれもほぼ目標どおりに達成できました。 ●配下の事務事業のうち、「市バス運輸安全マネジメント推進事業」については、適切な速度での運行や危険予測が不十分であったことなどから、車両接触事故及び自転車関係事故などが増加したため、令和2年度及び令和3年度の「走行距離10万kmあたりの有責事故発生件数」が目標値を超えてしまいました。また、「市バス収益性事業」については、新型コロナウイルス感染症の影響により「貸切バス事業収入」が目標値を下回りました。その他の事務事業については、ほぼ目標どおりに進捗しました。 ●「市バスの乗車人数(1日平均)」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度及び令和3年度の乗車人員が大幅に減少したことから目標を下回りましたが、利用動向を踏まえた運行計画を見直すことで市バスネットワークを維持することができました。 なお、令和3年度の乗車人員は、令和2年度を上回りましたが、新型コロナウイルス感染拡大前の乗車人員までは戻っていません。 また、安心して市バスをご利用いただけるように、新型コロナウイルス感染症対策として、車内換気の徹底や抗ウイルス・抗菌施工を全バス車両に実施しました。
	実績値	40	34.5	42.3	16.8	12.4	14.6																			
市内の海周辺施設を利用したことがあり、魅力を感じ る人の割合	目標値	/	/	-	15.0	-	17.0	%	↗ 増減	-	b	-	b	b												
実績値	11.0	13.3	-	13.0	-	15.4																				
目標値	/	/	41.25	41.5	41.75	42	万人	↗ 増減	a	d	d	d	d	B		B	B	C	B	●配下の事務事業のうち、「川崎港緑化推進事業」について、令和3年度に港湾緑地(塩浜揚場)の整備時期を令和4年度以降に変更したほか、「港湾緑地維持管理事業」については、R2年度に新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大規模イベントが相次ぎ中止となったことから、目標を達成できませんでした。その他の5事務事業については、概ね目標どおりに進捗しています。 ●成果指標の「川崎マリエン利用者数(港湾振興イベント及びスポーツ施設等の利用者を含む)」については、川崎みなと祭りを台風や新型コロナウイルス感染症の影響により中止にしたことなどから、目標を達成できませんでしたが、利用者増加に向けて一般市民向けイベントを積極的に開催したり、公益財団法人日本財団からの補助金を活用した上で、感染症対策を踏まえて川崎みなと祭りを分散開催としたほか、デジタルコンテンツを活用した積極的な情報発信等により、川崎港の役割や魅力に関する市民理解の向上を図りました。 ●成果指標の「市内の海周辺施設を利用したことがあり、魅力を感じる人の割合」については、目標を下回る結果となりましたが、前回調査時よりも上回る結果となっています。これは、港湾緑地の利用率向上に向けた取組や令和2年度から放置車両対策を強化したことにより、「台切りシャーン」や無ナンバー車両が激減したことなどの施策成果が寄与しているものと考えられます。						
実績値	40	34.5	42.3	16.8	12.4	14.6																				
市内の海周辺施設を利用したことがあり、魅力を感じ る人の割合	目標値	/	/	-	15.0	-	17.0	%	↗ 増減	-	b	-	b		b											
実績値	11.0	13.3	-	13.0	-	15.4																				

新型コロナウイルス感染症等に対応した工夫がみられた事例

目標を達成（達成度A）した施策のうち、コロナ対応の工夫等がみられた事例等

No.	施策番号	施策名	概要	キーワード
1	施策4-2-1	ベンチャー支援、起業・創業の促進	新規法人設立者などが活用する特定創業支援等事業の申請を、オンライン申請に切り替え	オンライン申請 利便性向上
2	施策4-2-5	ICT（情報通信技術）の活用による市民利便性の向上	簡易版電子申請サービスを本格導入し、各種届出やアンケート調査など簡易な手続きのオンライン申請における環境を整備	オンライン申請 利便性向上

一定進捗（達成度B）した施策のうち、コロナ対応の工夫等がみられた事例等

No.	施策番号	施策名	概要	キーワード
1	施策1-1-4	消防力の総合的な強化	消防団員向けに警防技術・知識の向上に向けたオンライン研修を実施したところ、例年に比べて訓練参加者数が増加	研修会 オンライン活用
2	施策2-1-3	子どものすこやかな成長の促進	こども文化センターにおいて、1人遊び遊具の充実やICTを活用したボードゲーム大会等、対面を避けた事業やICT活用など事業内容を工夫したことで、密を避けた取組を実施	密回避 ICT活用
3	施策4-1-1	アジアを中心とした海外での事業展開支援の強化	川崎国際環境技術展のオンライン開催により、市内中小企業の自社PRや商談機会の確保やデジタル化の推進に貢献	マッチング デジタル化
4	施策4-2-3	科学技術を活かした研究開発基盤の強化	オンラインを活用したマッチングイベントの開催 イベント等のリアル・オンライン併用開催の提案による施設稼働率の改善	マッチング オンライン活用
5	施策4-4-1	臨海部の戦略的な産業集積と基盤整備	新型コロナウイルス感染症等の影響により中止した科学イベントに替えて、Webによる「キングスカイフロントクイズ」を実施し、サイエンスに触れる機会を確保	イベント
6	施策4-4-3	市民に開かれた安全で快適な臨海部の環境整備	川崎みなと祭りを分散開催とし、密を避けて多くの個別イベントを開催 川崎港の魅力や役割に関する市民理解の向上に向けて、デジタルコンテンツを活用した情報発信を実施	イベント オンライン活用

コロナ対応の工夫等がみられたものの、施策の進捗が遅れた（達成度C）事例等

No.	施策番号	施策名	概要	キーワード
1	施策4-8-1	スポーツのまちづくりの推進	中止となった川崎国際多摩川マラソンの代替として、参加者が任意の場所を走り、GPSトレーニングアプリを活用してランニング実績を計測するオンライン大会を開催。	イベント ICT活用
2	施策4-8-2	市民の文化芸術活動の振興	多くの文化芸術イベントが中止・縮小となる中、市文化芸術応援チャンネルでの動画公開やオンラインイベントなどを実施	イベント オンライン活用
3	施策4-8-3	音楽や映像のまちづくりの推進	かわさきジャズについて、関係団体との連携強化によって、街なかでのコンサートなどを開催。幅広い世代が参加し、全体としてイベントの魅力が向上	イベント 連携